



Assoc.Prof Naoto NAKAJIMA
D1 Basia Matelowska
M2 Naho KAMIYA
M2 Ko SHIOZAKI
M1 Junya ITO
M1 Shunsuke TACHIBANA
M1 Hana HASEGAWA
M1 Maho HIRANO
M1 Yusuke MORIYA

Architect Hiroo TANAKA
Assoc.Prof Takahiro MIYASHITA
+Urbanism Studies Unit
(Musashino University)

Keio SFC
Fujiyoshida city

変化する観光の実態を捉え、活力として地域に還元する

Analyzing the state of changing tourism in the region and its return to once lost vitality.

地域や活動の概要 | 富士山のふもと、歴史・自然・文化に富んだ 暮らしと観光のあるまち

Background | A town located at the foot of Mt.Fuji; rich in history culture and nature, where resident life and tourism coexist.

■対象：山梨県富士吉田市下吉田 新倉・下吉田エリア



対象エリアは、「富士山信仰」という固有の伝統文化の他に、神社・寺や溶岩流跡などの歴史・自然資源が豊かな地域である。古くから織物産業が続き、現在でも機織りの布は名産品として親しまれる。

一方高齢化や人口減少が深刻で、市はまちに活力を取り戻すべく、移住定住課をはじめとしてこの問題に取り組んでいる。

■急激な観光客の流入

2016 年観光客が発信した一枚の写真の拡散をきっかけに、忠霊塔のある新倉山浅間公園には海外および全国各地から観光客が殺到した。ここ最近ではコロナ禍の収束によってか、特に外国人観光客が急増している。



新設された展望デッキ

■観光の課題にアプローチし、活力にする

急激な観光客の増加は住民が暮らすまちに交通渋滞などの課題をもたらす一方、滞在時間の短い観光スタイルはまちの活力として還元されていない。そこで、観光地としての人気を活かしてまちの活力を取り戻すことを目指し、市や地元関係者と連携してまちづくりに取り組んでいる。

課題1 観光客の車がまちに溢れる

ピーク時は住民の生活道にも渋滞をもたらしてしまう

課題2 忠霊塔来訪者はまちを歩かない

滞在時間が短く、まちに落とすお金が小さい。

活動内容 | 「二つの浅間神社をむすぶ」の実践

What we have worked on | Practice of "connecting two Sengen shrines."

■2022 年度目標

「二つの浅間神社をむすぶ」

富士吉田市内には富士山を信仰する「浅間神社」が多数ある。観光客も多く訪れる新倉山浅間公園内の「新倉富士浅間神社」は中でも古くからの歴史があり、富士吉田の富士山信仰の中心である「富士山下宮小室浅間神社」と同様に人々に開かれたオープンスペースとしての役割も持つ。この二つの神社間の回遊性を高め、忠霊塔観光客を下吉田のまちなかに引き込み、活性化につなげられると考えた。



新倉富士浅間神社

古くからの住民の信仰
多くの観光客の来訪

まちなかの
活性化

富士山下宮
小室浅間神社

下吉田の歴史的重心

■社会実験「ヒモトキ・ミチオリ - 新倉と下吉田をむすぶ4日間 -」

ビジョンを空間に反映させ、検証する

二つの浅間神社間の道や途中の地点を対象に、空き空間の活用可能性やルート自体の魅力を検証するまちづくり実験を行った。



機織りの廃材を使った
みちづくり



地元店舗・自治
会との協働



マップを介した住民・
観光客との対話



空き空間のポテンシャル
を引き出す場づくり

↑ ベンチの設置 ↓ 結果の共有 ↑ 企画への反映 ⇄ 交通量などの比較

■富士学苑高校ワークショップ

地元高校生との協働



ベンチづくり WS



まちの未来を考える

■各種調査や展示

行動・交通の実態を継続的に捉える



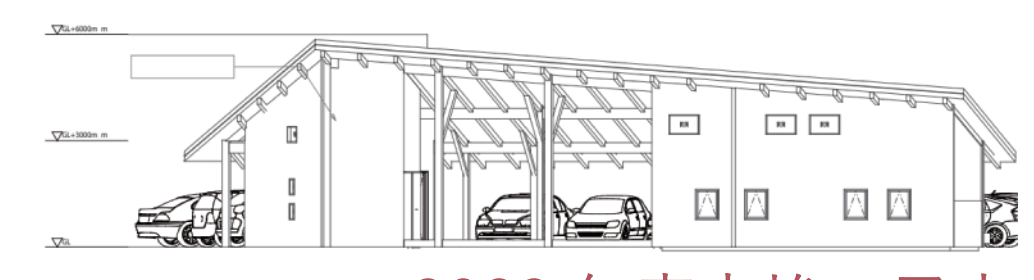
交通量調査・ヒアリング



過去の調査の展示

■宮川橋駐車場基本設計「rinki」

まちの新たな回遊拠点を作る



2023 年度内竣工予定

今後の展開 | 回遊性向上にむけた実践をより戦略的に

Future vision | Implementing strategic practices towards improvement of transit circulation.

■「二つの神社から広がる交流交通圏を作る」

2022 年度の調査研究を踏まえ、神社を起点とした回遊性の高いまちづくりのために必要な視点が明らかになった。今後はこれらを検証することを活動の軸として、暮らしと観光の双方を向上させることを目指す。



神社の極近に
次の目的地を



交通手段の
複層化



観光と暮らしの
両方を支える

■更新されたビジョンに基づく活動案

1. 変わりつつある観光客の行動特性の調査



外国人観光客の急増を受け、観光客の行動特性を再度捉え直す。

◀急増した観光客

2. あと一步の回遊を促すための、神社の次の目的地のデザイン



神社のすぐ近くに観光客の次の目的地を作り、まちに出歩くきっかけを提供する。

◀まちの歴史の展示

3. 地元団体と連携した多様なモビリティの利用推進実験



交流空間にもなる待合所のデザインや、目的地に応じた多様なモビリティの利用を推進する。

◀地元団体が提供する馬による輸送サービス

